

「ワンヘルスフォーラム2023」を開催

# ワンヘルスがまちを明るくやさしく



藤田朋子さん  
俳優



ワンヘルス尽くしの1日  
約60のブースやマルシェが集まりました

5月14日、総合市民センターで「ワンヘルスフォーラム2023」を初めて開催しました。約4千人の皆さまにご来場いただき、基調講演やトークショー、ワンヘルス楽校、各種体験ブースや催しなどを通して、ワンヘルスに理解を深める1日となりました。

## 基調講演／トークショー



▲横倉義武さんの基調講演

**横倉義武さん**  
日本医師会名誉会長・みやま市名誉市民  
社会医療法人弘恵会ヨコクラ病院理事長

【講演要旨】

日常の生活ができなかったこの3年間。ウイルスはとんでもないものだと思いますが、ウイルスがいなければ人間はこの世に存在しませ

ませんでした。地球上にはさまざまな生きものが生きていて、人の健康、動物の健康、環境の健全性は互いに密接につながり、強く影響し合っています。これを1つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方がワンヘルスです。

移動網の高速化や、開発による森林破壊などが感染を広げています。利便性や経済の発展に重きをおいた行動や活動から、動物の健康や環境の健全性にも配慮したものに変わ、ワンヘルスに取り組むことが次なるパンデミックへの備えとなります。国、県、市、医師会、獣医師会、農林水産業などの各分野が連携して取り組み、市民の皆さまと共にワンヘルスを推進していくことが重要です。



▲藤田朋子さんのトークショー

みやま市に住んでいる方が自慢に思えるようなプロジェクトになれば素敵だと思います。ワンヘルスのまちに住んでいるんだ、という気持ちが心を明るくしてくれるのではないのでしょうか！

## 動物とふれあい 学び 体験 にぎわい



▲八女農業高校のふれあい動物園



▲犬・猫の譲渡会などがありました



▲福岡県保健環境研究所のふしぎ!ワクワク!科学実験コーナー

### 世代を超えて「わたしにできる」を探す ワンヘルス楽校



ワンヘルスを楽しく学ぶ「ワンヘルス楽校」が開校し、幅広い世代から約70人が参加。担当した山口信子校長(南小)は、ワンヘルスの意義や取り組みの大切さをゲームを交えて楽しみながらわかりやすく説明し、「自分にできることを考え、実践していきましょう」と呼び掛けました。

「リサイクルをする」「ごみがあったら拾う」「健康な体をつくる」「花を育てる」「動物をかわいがる」など、参加者が取り組みたいことを書いた付箋が掲示板に張り出され、「楽しく学びました」「日頃の心がけが大切だとわかりました」との感想が聞かれました。

## ワンヘルス市民講座を開催

### キーワードは『いのち』

4月25、26、28日の3日間、市民の皆さまにワンヘルスへの理解を深めていただくため、市内3会場ですべて市民講座を開催しました。

講座では福岡県の担当者が、県におけるワンヘルスの取り組みと、令和9年度に利用開始予定のワンヘルスセンターの概要を説明されました。

ワンヘルスセンターは、人、動物、環境の各分野に関する一体的な調査・研究ができる全国初の施設として、保健医療経営大学跡地に整備されます。

また、「ワンヘルスってなあに？」をテーマに芝田良倫さん(一般社団法人ワン・ヘルス・クリエイティブ理事長)が講演されました。会場からは、施設の安全性についての質問や、「ワンヘルスは自分の身近にあり、すでに実践していたことを再認識できました」などの意見がありました。「ワンヘルスのキーワードは」という質問に、芝田さんは「『いのち』です。ワンヘルスはすべてののちにつながっています」と話されました。



芝田さん(左)と県の担当者(右)

企画振興課 ワンヘルス総合推進室  
(TEL 080・9754)